

足立区立小学校教育研究会「外国語活動部会」の取組

1 足立区の地勢

足立区は東京都 23 区の北端に位置する特別区であり、東に葛飾区、西に北区、南に荒川区、北には埼玉県川口市・草加市・八潮市がある。四方を河川に囲まれた本区は水辺や緑豊かな自然に恵まれている。隅田川と荒川に挟まれた千住地区と面積の大半を占める荒川以北の地区に分けると、千住地区は江戸時代には日光街道の宿場町として栄え、現在は区内最大のターミナル駅である北千住駅を中心とした商業地区となっている。農地面積は 23 区内で第 3 位の広さを有し、枝豆の収穫量が都内第 1 位、小松菜の収穫量は第 3 位と収穫量が多く、小松菜パンや小松菜パスタなどが給食でも提供されている。

足立区は現在総面積 53.25 平方キロメートルに約 69 万人の人々が暮らしている。小学校は 69 あり、約 3.2 万人（約 4.5%）の児童が学んでいる。区内には東京未来大学や放送大学、帝京科学大学、東京芸術大学、東京電機大学などがあり、令和 3 年 4 月には文教大学が 4 月開校予定である。各大学との連携事業もあり、学力の向上に力を入れている。

2 足立区の教育

平成 28 年 2 月に、足立区教育大綱を定め「～夢や希望を信じて生き抜く人づくり～」に取り組んでいる。この大綱実現に向け 3 つのライフステージ「人間形成の基礎を養う乳幼児期（0 歳から）」「自立する力を養う青少年期（6 歳から）」「学びの成果を還元する成人期（18 歳から）」に合わせ、「1 誰もが子供を支える主役」「2 貧困の連鎖を断ち切る教育」の 2 本の柱を定めている。

令和 2 年 3 月には足立区教育委員会では「足立区教育振興ビジョン」を策定し、今後 5 年間に教育行政が取り組むべき施策と事業があり、家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む足立区基本計画として以下の 5 つの施策 16 の戦略が示された。

施策 2 の「確かな学力の定着」においては、「英語力向上」も掲げられており、様々な取組が展開されている。

- | | |
|------|------------------------------|
| 施策 1 | 児童・生徒の心身の健全な発達の支援 |
| 施策 2 | 確かな学力の定着に向けた就学前から義務教育までの取り組み |
| 施策 3 | 不登校児童など子どもの状況に応じた支援の充実 |
| 施策 4 | 快適に学べる教育施設の整備と運営の充実 |
| 施策 5 | こども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援 |

3 足立区立小学校教育研究会外国語活動部について

本研究会は足立区立小学校に勤務する職員で構成された組織であり、足立区の小学校教育を振興することを目的とし、自発的な研究活動を積み上げてきた。現在 22 の部が設置され、外国語活動部もその 1 つとして活動を行っている。

月 1 回の例会では、中学年と高学年の各分科会による授業提案や研究協議をはじめ、著名な講師を招いた講演会や中学校と連携した相互授業参観等にも取り組んでいる。また、教育委員会とも連携し、“授業の基本型”をまとめた「足立スタンダード」の外国語（活動）版の作成に協力したり、それに基づく授業を公開したりしてきた。また、小学校外国語科（活動）の授業づくりや授業支援に当たってくれる「足立区小学校外国語活動アドバイザー」による実技研修も取り入れてきた。

今年度は研究会の共通テーマ『児童の主体的・対話的で深い学びの実現』を受け、本部会は「相手の伝えたいことが分かり、自分の言葉で伝え合える児童の育成～継続した『やり取り』ができる力の育成に焦点を当てて～」との主題を掲げて研究を進めてきた。詳細については次の項の研究構想図をご参照いただきたい。

ただ、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により、中学校教育研究との連携事業などは実施することができなかった。年度末の発表についても誌上発表となった。

それでも、学年分科会ごとの授業研究は手だての効果検証にまで踏み込んで進めることができたので、その一端をこの機会に紹介させていただくことにする。

4 外国語活動部の研究主題について

今年度は、高学年外国語の教科化及び、中学年外国語活動が全面実施となった年であり、本部会では区小研の共通主題を踏まえ、前述した研究主題を設定して活動を進めた。

研究主題の「相手の伝えたいことが分かる」ための大切なポイントを、①分からないことが分からないと言える学習集団②学習レベルの少し上の英語で、既習内容から推測して理解できる内容の英語を聞かせる⇒推測しながら内容を理解しようとする聞き方③児童のもっている言語力より少し上の言葉を投げかけることができる教師の英語力の育成と設定した。

「自分の言葉で伝え合う」ための大切なポイントとして、①伝えたい内容があること⇒思考する場面の設定②既習事項を繰り返し使用させる指導⇒伝えるための手段を獲得していること（慣れ親しみ）③児童同士で相づちを打ったり、質問をしたりすることで会話が続く楽しさや英語が使えたという成功体験をさせること⇒中身のある会話と設定した。

設定したポイントの有効性を見取る視点として「やり取り」に焦点を当てて研究を進め、「やり取り」をすることで児童が自分の言葉で伝えられたという自信と、学習意欲の向上につながれるよう、仮説実証型の研究に取り組んだ。（研究の概要については次頁を参照のこと）

5 研究経過

月	日	内 容	会 場
7	8	(1) 組織、年間計画の決定 (2) 研究主題、研究の方法について (3) 足立スタンダード授業研修会	足立区立伊興小学校
9	16	(1) 分科会ごとの授業研究会 (2) アドバイザー主催の英語力向上研修 (3) 講演	足立区立亀田小学校
10	14	(1) 授業研究会に向けた全体会・分科会 (2) アドバイザー主催の英語力向上研修 (3) 講演	足立区立亀田小学校
11	11	(1) 授業研究会 中学年分科会 (2) アドバイザー主催の英語力向上研修 (3) 指導講評	足立区立島根小学校
12	2	(1) 授業研究会 高学年分科会 (2) アドバイザー主催の英語力向上研修 (3) 指導講評	足立区立亀田小学校
1	20	(1) 講演 (2) 参会者による協議、意見交換	リモートによるオンライン研修
2	10	(1) 研究の概要 (2) 授業及び検証結果（分科会提案） (3) 研究の成果と課題	誌上発表
3	3	(1) 1年間のまとめと反省 (2) 次年度の計画 (3) 今年度の成果と課題	足立区立亀田小学校（予定）

※新型コロナウイルス感染症による休校措置等により、本年度の例会は7月からとなった。また東京都に再発令された緊急事態宣言により、1月例会はリモートによる講演と協議に、2月の発表会は誌上発表となった。

※上記例会では、文部科学省や東京都教職員研修センター、足立区教育委員会から講師の先生をお招きし、ご指導をいただいた。

※授業研究会は、新型コロナウイルス感染症対策として事前に授業動画を録画して編集し、その動画を見ながらの協議、研修を行った。

《研究の概要》

区小研共通テーマ『児童の主体的・対話的で深い学びの実現』

外国語活動部研究主題

『相手の伝えたいことが分かり、
自分の言葉で伝え合える児童の育成』

★「分かる」ための大切なポイント★

- ①分からないことが分からないと言える学習集団
- ②学習レベルの少し上の英語で、既習内容から推測して理解できる内容の英語を聞かせる⇒推測しながら内容を理解しようとする聞き方
- ③児童の言語力の少し上の言葉を投げかけられる教師の英語力

★「伝え合う」ための大切なポイント★

- ①伝えたい内容があること⇒思考する場面を設定
- ②伝えるための手段を獲得していること⇒既習表現を繰り返し使用（慣れ親しみ）
- ③相手の興味を引いたり関心が向いたりするような質問の内容や態度を身に付けること⇒英語で伝えられたという成功体験への導きをさせること⇒中身のある会話

今年度設定された区小研の共通テーマを踏まえるとともに、昨年度の課題であった「児童が気になったり伝えなくなったりしたことを授業に取り入れる」「中・高学年の円滑な接続や中学校とのさらなる連携を進める」の2点も鑑み、研究主題に迫るポイントの有効性を見取る視点として今年度も「やりとり」に焦点を当てて研究を進める。児童同士の「やりとり」は現在実施が難しい状況であるが、発達段階に応じた「やりとり」ができる力の育成を目指し、授業の流れや指導方法の工夫についての手だてを講じるため、部会ごとに目指す児童像を設定し、

目指す児童像（中学年部会で設定）

- ・自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする児童
- ・挨拶、感謝、簡単な指示をしたりそれらに応じたりするようにすること。また、自分のことや身の回りのものについて、動作を交えながら自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとする児童（3往復以上）

目指す児童像（高学年部会で設定）

- ・対話を続けるための基本的な表現を身に付け、既習表現を使いながら会話を楽しむ児童（新出表現 1 センテンス+既習表現 2 センテンス以上を使った会話ができるようになる）

研究の仮設（分科会設定）

- ・英語を用いてあいづちを打ったり、既習事項を繰り返し活用するような活動を取り入れたり、必然性のある場面を設定したりすることで、自分や相手のこと及び身の回りのものに関する事柄について質問したり、質問に答えたりすることができるだろう。

研究の仮設（分科会設定）

- ・既習表現を使った意図的な Small Talk を継続的に行えば、対話を続けるための基本的な表現を身に付けることができるだろう。
- ・3人以上でのやり取りをさせることで、2人でのやり取り以上に会話に広がり生まれ、対話を続けようとする主体的に取り組めるようになるだろう。また、やり取りが苦手な児童の手助けにもなるだろう。

5 授業研究の具体的な内容

前述したように、今年度は新型コロナウイルスの影響で、授業研究は中学年分科会による4年生の提案（実証）授業と高学年分科会による6年生の提案（実証）授業の2本となった。ここでは提案内容と本時の指導案を掲載し、研究の一端を紹介する。

【実践1】 4年 Let's Try!2 Unit7 What do you want?

<中学年の目指す児童像>

- ・自分の考えや気持ちなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合おうとする児童
- ・挨拶、感謝、簡単な指示をしたりそれらに応じたりするようにすること。また、自分のことや身の回りのものについて、動作を交えながら自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとする児童（3往復以上）

○研究の仮説

英語を用いて相づちを打ったり、既習事項を繰り返し活用するような活動を取り入れたり、必然性のある場面を設定したりすることで、自分や相手のこと及び身の回りのものに関する事柄について質問したり、質問に答えたりすることができるだろう。

○仮説の実証に向けた具体的な手立て

（1）コミュニケーションカードの提示・朝の1分間トーク・既習事項の活用

教室内に、やり取りを継続するための基本的な表現をコミュニケーションカードとして常に掲示しておき、自信をもってやり取りをすることができるようにした。どのようにしたら相手と楽しくコミュニケーションをとることができるかも毎時間のやり取りの際に意識させた。

コミュニケーションの重要性や話しやすい環境を作るために、朝の会を利用して、1分間トークを行った。7月からは、対話を続ける質問や反応についても振り返りを行い、コミュニケーションの本として教室内に掲示を行った。やり取りをする際、相手のことをもっと詳しく知ったり、自分の言いたいことをもっと詳しくしたりするためにはどのようにしたら良いか考えさせた。その方法として、既習事項を活用することができるように、支援を行った。

（2）必然性のある場面設定を行う

第1時では学習の見通しを立てるため、【Activity1】で教師と代表児童がフルーツパフェを作る場面設定をした。最終活動を伝え、児童自身にも単元の学習内容を考えさせる機会を設けた。

第2時では、【Activity 2】でペアになり、友達が欲しい材料から、何の料理を作っていくのか当てた。第3時では、【Activity 3】でペアになり、友達にインタビューをしながらオリジナルピザを作った。友達が好みの野菜を使ってピザを作るために、欲しいものを尋ねる“What do you want?”の表現を使うようにした。第4時では、【Activity 4】でペアになり、友達が欲しい食材を使って、友達のためにパフェを作るために、買い物メモを作成した。友達のために友達が好きな食材を使ってパフェを作るという目的意識をもたせ、友達が欲しい食材の買い物メモを作成するために、“What do you want?”の表現を使うようにした。また、より相手好みにするために、パフェグラスの色なども工夫させる。その際、既習の“What color do you like?”の表現も使うよう促した。

第5時では、【Activity 5】でペアになり、前時で作成した買い物メモをもとに、実際にフルーツを買い物する。4-3マーケットとし、お店屋さんとお客さんに分かれ、“What do you want?” ‘I want ~, please.’の表現を使わせた。また、パフェが完成したのち、【Activity 6】では、既習表現を用いながら友達のために作ったパフェを紹介し合った。

（3）ヒントカードの活用

自信をもってやり取りをすることに不安感がある児童には、ヒントカードとして、本単元でのやりとりを絵で示したカードを渡した。やりとりの際、どのような表現を使ったらよいかわからなくなってしまった場合は、ヒントカードを見て良いことを伝え、最終活動ではヒントカードなしで自信をもってやりとりができるように促した。

○単元の指導計画と評価計画（5時間）

時	目標	知	思	態	○主な活動 ◇評価規準	扱う表現例
1	<p>食材の言い方に慣れ親しみ、世界の市場の様子や様々な食材があることに気付く。</p> <p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>				<p>○何があるかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パフェの写真やテキスト p 26, 27を見て、知っている食材を発表する <p>○【Let's Watch and Think】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の市場の様子を見て、世界には様々な食材があること、自分たちに身近な食べ物もあることを知る。 <p>○【Let's Chant】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What do you want? <p>○【Activity1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と代表児童、児童代表同士のフルーツパフェを作る際のやりとりを聞いたり、一緒に尋ねたり答えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・果物 ・野菜 ・What do you want? ・I want ~s, please. ・How many? ・~, please. ・Here you are. ・Thank you.
2	<p>欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>	○			<p>○【Let's Chant】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What do you want? <p>○【Let's Play】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポインティングゲーム <p>○【Let's Listen1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物がフルーツパフェの中身を紹介するのを聞き、線で結ぶ。 <p>○【Activity 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、友達が欲しい材料から、何の料理を作っているのか当てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・果物 ・野菜 ・What do you want? ・I want ~s, please. ・How many? ・~, please. ・Here you are. ・Thank you. ・Do you like ~? ・Yes, I do./ No, I don't.
3	<p>食材について欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。</p> <p>本時では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>				<p>○【Let's Chant】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What do you want? <p>○【Let's Listen 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音声を聞いて、缶詰のイラストと文字を線で結ぶ。 <p>○【Activity 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、友達にインタビューをしながらオリジナルピザを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・果物 ・野菜 ・What do you want? ・I want ~s, please. ・How many? ・~, please. ・Here you are. ・Thank you. ・Do you like ~? ・Yes, I do./ No, I don't.

4	<p>友達が好きな食材を使ってパフェを作るために、相手に伝わるよう工夫しながら、食材について、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。</p>			<p>○ 【Let's Chant】</p> <ul style="list-style-type: none"> • What do you want? <p>○ 【Activity 4】</p> <ul style="list-style-type: none"> • ペアになり、友達が欲しい食材を使って、友達のためにパフェを作るために、買い物メモを作成する。 <p>話すこと（やり取り）の記録に残す評価</p> <p>◇食材など、身の回りの物について“What do you want?”や“I want ～, please.”などを用いて欲しいものを尋ねたり答えたりしている。（行動観察・振り返りシート記述点検）</p> <p>◇学級の友達が好きな食材を使ってパフェを作るために、相手に伝わるよう工夫しながら、食材など、身の回りの物について、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。（行動観察・振り返りを返りシート記述点検）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 果物 • 野菜 • What do you want? • I want ～s, please. • How many? • ～, please. • Here you are. • Thank you. • Do you like ～? • Yes, I do./ No, I don't.
5	<p>学級の友達が好きな食材を使ってパフェを作るために、食材について、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。</p>			<p>○ 【Let's Chant】</p> <ul style="list-style-type: none"> • What do you want? <p>○ 【Activity 5】</p> <ul style="list-style-type: none"> • お店屋さん役とお客さん役に分かれ、前時で作成した買い物メモをもとに、友達が欲しい食材を使ってパフェを作る。 <p>○ 【Activity 6】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 友達のためにつくったパフェを紹介し合う。 <p>話すこと（やり取り）の記録に残す評価</p> <p>◇学級の友達が好きな食材を使ってパフェを作るために、相手に伝わるよう工夫しながら、食材など、身の回りの物について、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。（行動観察・振り返りシート記述点検）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 果物 • 野菜 • What do you want? • I want ～s, please. • How many? • ～, please. • Here you are. • Thank you. • Do you like ～? • Yes, I do./ No, I don't.

○本時について (5/5時間目)

- ・本時の目標 学級の友達が好きな食材を使ってパフェを作るために、食材について、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。

	○学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準 ◆英語表現							
導入	○挨拶をする。	・全体に挨拶をする。	◆How are you? ◆How is the weather today? ◆What day is it today? ◆What do you want? I want tomatoes, please. How many? 数, please. Here you are. Thank you. You're welcome.							
5分	○【Let's Chant】 ・What do you want? ○めあてを確認する。									
Today's Goal : 友達のためにパフェを作り、しょうかいし合おう										
展開 20分	○【Activity 5】 ・お店屋さん役とお客さん役に分かれ、前時で作成した買い物メモをもとに、友達が欲しい食材を使ってパフェを作る。 ・買い物が済んだら、友達のためにパフェを作る。	・活動の前に、デモンストレーションをして、活動内容の確認をする。 ・お店→赤帽子 お客→白帽子とする ・支援が必要な児童やペアに適切な声掛けをする。ヒントカードを渡す。 ・コミュニケーションを図る時の大事なことを確認し、お買い物memoばかりを見て買い物をしないよう初めに声掛けをする。 ・友達が欲しい食材を買い物するという目的意識をもたせる。 ・活動の途中で、相手を意識してやり取りをすることができているペアを紹介する。	◆ <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"><tr><td>店</td></tr><tr><td>客</td></tr><tr><td>店</td></tr><tr><td>客</td></tr><tr><td>店</td></tr><tr><td>客</td></tr><tr><td>店</td></tr></table> What do you want? I want peaches, please. How many? 数, please. Here you are. Thank you. You're welcome.	店	客	店	客	店	客	店
店										
客										
店										
客										
店										
客										
店										
15分	○【Activity 6】 ・友達のために作ったパフェを紹介し合う。	・活動の前に、デモンストレーションをして、活動内容の確認をする。 ・友達のために作ったという本単元のめあてを再確認し、紹介し合うときに、お互いどのようなリアクションができそうか声かけをする。	◆What color do you like? I like blue. ◆This is for you! You like peaches, melons, and oranges! Yes! Nice!! You like green! Wow, beautiful! Thank you very much!! You are welcome.							
終末 5分	○振り返りカードを記入する。		◇学級の友達が好きな食材を使ってパフェを作るために、相手に伝わるよう工夫しながら、食材など、身の回りの物について欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。(行動観察・振り返りシート記述点検)							

【実践2】 Unit6 Let's think about our food. (東京書籍 NEW HORIZON Elementary 6)

<高学年の目指す児童像>

・対話を続けるための基本的な表現を身に付け、既習表現を使いながら会話を楽しむ児童（新出表現1センテンス+既習センテンス2以上を使った会話ができるようになる）

○研究の仮説

高学年部会では、目指す児童像育成のために以下の2つの仮説を立て、検証していく。

- ① 既習表現を使った意図的な Small Talk を行えば、対話を続けるための基本的な表現を身に付けることができるだろう。
- ② 3人以上のやり取りをさせることで、2人でのやり取り以上に会話に広がり生まれ、対話を続けようとする主体的に取り組めるようになるだろう。また、やり取りが苦手な児童の手助けにもなるだろう。

○仮説の実証に向けた具体的な手立て

(1) Small Talk の実践

新出表現1センテンス+既習表現2センテンスを使うことができるように、Small Talk の内容の設定を行い、当該言語材料の定着を図るものとした。また、対話を続けるための基本的な表現も昨年に引き続き指導することにより、コミュニケーションとしての広がりをもたせられるよう促すようにした。

【対話を続けるための基本的な表現】

- ① 対話の開始 (Hi, Hello, How are you? など)
- ② 繰り返し (A : I went to Tokyo. B : You went to Tokyo. など)
- ③ 相づち (Sure, Good! Really? など)
- ④ 確かめ (Pardon me? What? など)
- ⑤ さらに質問 (A : I like fruits. B: What fruits do you like? A: Why? B: I like tennis. など)
- ⑥ 対話の終了 (Nice talking to you. / You, too. Thank you! など)

(2) 3人以上での Small Talk

通常は2人1組で行う Small Talk だが、3人1組での活動を取り入れた。初めのうちは相手の英語が聞き取れなかったり、意味が分からなかったりしても、3人のうちの1人が相づちを打ったり、繰り返しをしたりすることで、2人よりも会話の広がりや深まりがでるのではないかと考えた。さらにジェスチャー等で互いに内容のアドバイスをするように促した。また、話すための表現が身に付いていない児童に、他の児童が教え合うことで、より一層の学習の定着を図れるのではないかと考えた。

(3) 他教科との連携

以下の単元と連携を図った。

- 家庭科…栄養の学習を9月に行い、三大栄養素については既習をしている。毎日の給食の献立についても3つの色に分けグループ分けをしているので、児童は食材について既に日本語で食材を構築できる。
- 社会科…考えたメニューに使われる食材が、どこから来ているのかを知り、生産地（5年社会科で既習）や値段に気付くことで、食事が、自分たちの生活とつながっていることを知る機会となる。また、実際に家族と自分が考えたメニューを作ってみることで活動を通して、「日常に根付いた頻度の多い言語活動」を英語で伝えるという意識をもたせる。
- 体育科「保健」…「丈夫な体をつくるためには」というテーマから、自身の身体を作る食事の食材を考え、健康につながる食材から、バランスのよい食事を摂ることの大切さを意識させる。

○単元の指導計画と評価計画（8時間）

時	目標	評価			◎主な活動 ・ 児童の活動内容	扱う表現例 ◇評価規準
		知	思	主		
1	○食べたものやそれらの生産地についてのやり取りを聞いて、おおよその内容を理解することができる。	聞		聞	<p>【Small Talk】 「好きな食べ物」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: What food do you like? B: I like apples. A: That's good! / Nice! B: Do you like apples? A: No, I don't. B: What food do you like? A: I like bananas. B: Me too. Anything else? A: I like kiwi too! ...</p> </div> <p>【Let's Sing】 What did you eat? 【Starting Out】 Starting Out→U6（No.1 だけ映像あり） ・ No.1 の音声を聞いたり、視聴したりする。 【Word Link】 「食べ物」 ◎ 【Let's Try 1】 キーワードゲームをしよう ・ メモリーゲームをする。 【Let's Listen 1】 ・ 音声を聞いて巻末絵カードを口に置く。 ・ 昨晚食べたものを伝え合おう ・ 友達と昨晚食べたものを伝え合おう。 【Let's Read and Write ①】 ・ 「わたしのせりふ」に、I ate ~.（昨日食べたもの）を書き写す。</p>	<p>What food do you like?</p> <p>What did you eat last night? (for dinner) I ate ~</p> <p>◇食べたものや、それらの産地についてのおおよその内容を理解している。</p>
2	○頻度の表す言葉を使って、普段食べているものを伝え合うことができる。	や	や		<p>【Small Talk】 「昨日の夕食」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: What did you eat for dinner? B: I ate omelet. A: You ate omelet! That's sounds good! / Nice! Do you like omelet? B: Yes, I do. Do you like omelet? A: Yes, I do.. B: What did you eat for dinner? A: I ate Tonkatsu. B: Oh, nice! Anything else? A: I ate salad. ...</p> </div> <p>【Let's Sing】 What did you eat? 【Starting Out】</p>	<p>What did you eat for dinner? I ate ~. (You ate~) beef chicken pork egg cheese fish</p>

				<p>(No.1 だけ映像あり) ・ No.2 の音声を聞いたり、視聴したりする。</p> <p>【Word Link】 PD 「食べ物」、「食事」 「国」 ・ 指導者の好きな食べ物 (カレー)、ふだん食べている (カレー) 食べ物について聞いたり、質問に答えたりする。</p> <p>【Let's Play 1】 ポイントゲーム ・ 食材の写真を指し示す。 ・ 友達と交代に語句を言ったり、写真を指し示したりする。</p> <p>◎ 【Activity】 自分が普段食べているカレーライスを3人1組のグループで伝え合う。</p> <p>【Let's Read and Write ②】 「わたしのせりふ」に、I usually eat ~. (ふだん食べている料理) を書き写す。</p>	<p>What country do you like?</p> <p>I usually eat beef curry at home. ◇頻度を表す言葉を使って、普段食べているものを伝え合っている。</p>
3	○食べ物とその生産地について伝え合うことができる。	や		<p>【Let's Sing】 What did you eat? 【Starting Out】 p.51 CD2 Track48,49 ・ No.3 ~ 4 の音声を聞いたり、視聴したりする。</p> <p>【Let's Chant】 Are you hungry? 【Small Talk】 「普段の朝食」 (3人1組のグループで伝え合う)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A: I usually eat bread for breakfast. How about you? B: I usually eat bread too. A: How about you? C: I usually eat rice. What did you eat for breakfast? A: I ate sandwiches. B: You ate sandwiches. C: Anything else? A: I ate yogurt. ...</p> </div> <p>【Word Link】 「食材」 ◎指導者の好きな食材などを聞き、その主な産地はどこか考えたり答えたりする。食材の産地が分かるようなポスター等を提示し、主な産地をどこかを考えたり答えたりする。</p> <p>【Let's Try 2】 Point and Say Game 【Let's Read and Write ③】 ・ 「わたしのせりふ」に、~ from ~. (食材の産地) を書き写す。</p>	<p>I usually eat ~. How about you? What did you eat for breakfast? I ate ~.</p> <p>~ is from ~. ◇食べ物とその生産地について、伝え合っている。</p>

4	○食べ物がどの栄養素グループに入るのかその言い方を知ると共に、聞いたり言ったりできる。	や		<p>【Small Talk】 「好きな給食」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: What school lunch do you like? B: I like kimchi cha-han. A: Why? B: I like kimchi. A: Nice. I like kimchi cha-han, too. Anything else? ...</p> </div> <p>【Let's Sing】 What did you eat? 【Let's Chant】 Are you hungry? 【Word Link】 「果物・野菜」「食材」</p> <p>◎他の先生達の健康的な料理の発表を聞く。 ・最終活動を確認し、自分の作りたい料理をイメージする。4つの食べ物の中から選ぶことを伝える。(カレー、ラーメン、ピザ、ハンバーガー)</p> <p>◎家庭科で学習した3つの栄養素グループの言い方を知る。</p> <p>【Let's Listen 2】 音声を聞いて、食べ物がどの栄養素グループに分けられるのかを聞く。□に巻末絵カードを置き、4線上に英語を書き写す。 ◎「わたしのせりふ」に、~ in the ~.を書き写す。</p>	<p>What school lunch do you like? I like~. Why?</p> <p>◇どの栄養素グループに入るのか聞いたり言ったりできている。 ~in the ~ group</p>
5 本時	○健康的な料理をグループで考え、伝え合うことができる。	や	や	<p>【Small Talk】 「好きなカレー」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: Do you like curry? B: Yes, I do. How about you? C: I like curry, too. A: What kind of curry do you like? B: I like pork curry. A: Oh, nice! How about you? C: I like butter chicken curry. A&B: Me too! B: Can you eat spicy curry? A: No, I can't. I usually eat mild curry. ...</p> </div> <p>【Let's Sing】 What did you eat? 【Let's Chant】 Are you hungry?</p> <p>・指導者が前時に発表した料理の食材を栄養素グループに分ける。 ◎「健康的な料理」を3人のグループで考える。 ◎考えた料理を発表する。 ・最終活動の見通しをもたせる。</p>	<p>What kind of curry do you like? I like~. How about you?</p> <p>Our curry and rice has beef, eggplants, carrots, onions, mushrooms. I don't like potato ◇作りたい料理を考え発表している。</p>

6	○自分が好きな食材を使った健康的な料理を考えることができる。またそれらを書き写すことができる。	書			<p>【Small Talk】 ◎「好きなピザ」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: What kind of pizza do you like? B: I like tomato pizza. A: Why? B: I like tomato. C: Me too. I like tomato. So I like tomato pizza. B: That's sounds good! How about you? A: I like seafood pizza. B: Nice! Anything else? ...</p> </div> <p>【Let's Sing】 What did you eat? 【Let's Chant】 Are you hungry?</p> <p>◎自分の食べ物を決め、ワークシートにカレーかピザかハンバーガーかラーメンを書き、どんな食材を使うかを決め、食材のグループに分ける。(準備①) (カード、挿絵等を使い、自分の考えた料理について発表準備をさせる。料理のオリジナルの名前等を考えさせ、グループの友達に伝える。)</p>	<p>What kind of pizza do you like? I like~. How about you?</p> <p>I like pizza. Bacon is a red group. Onion is a green group. Potato is a yellow group. ◇食材や栄養素について書き写すことができる。</p>
7	○自分で考えた健康的な料理について伝え合うことができる。	や	や		<p>【Let's Sing】 What did you eat? 【Let's Chant】 Are you hungry? 【Small Talk】 「昨日の夕食が健康的だったか」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: What did you eat for dinner? B: I ate tempura udon. Udon, sweet potato, shrimp C: Udon is in yellow group. Sweet potato is in yellow group. Shrimp is in yellow group. No vegetables. It's not healthy! A: Anything else? B: I ate salad. ...</p> </div> <p>◎自分で考えた健康的な料理についてプレゼンを作って伝え合う。また、考えた料理の良さをより理解してもらうために、伝えようとする内容を整理した上で自分たちの考えや気持ちなどを発表の言葉に追加し、グループで協力して工夫、練習する。 ・グループ同士でアドバイスし合う。</p>	<p>What did you eat for dinner? I ate ~. ~ is in ~ group. It's ~.</p> <p>◇自分で考えた健康的な料理について伝え合っている。</p>
8	○自分で考えた健康的な料理を発表することができる。	発	発		<p>【Small Talk】 「今日の給食」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A: Let's talk about yesterday's lunch. B: OK C: Was it healthy? B: Yes. A: Why? B: We ate bibimba and salad, soup. C: pork is in red group. ... B: Anything else?</p> </div> <p>◎自分で考えた料理を発表する。</p>	<p>~ is in ~ group. I ate ~. I like ~. It's ~.</p> <p>◇自分で考えた料理について発表している。</p>

○本時について (5/8時間目)

・本時の目標

健康的な料理をグループで考えて、伝え合うことができる。

	○学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準 ◆英語表現
導入 3分	○挨拶をする。 【Let's Chant】 Are you hungry?		◆How are you? How is the weather today? I 'm good. I'm hungry.
7分	【Small Talk】 「好きなカレーについて」	A: Do you like curry? B: Yes, I do. How about you? C: I like curry, too.. A: What kind of curry. B: I like pork curry. A: Oh, nice! How about you? C: I like butter chicken curry. A&B: Me too! B: Can you eat spicy curry? A: No, I can't. I usually eat mild curry. ...	◆What kind of curry do you like? ◆I like pork curry. You like pork curry. Why? I like pork. Can you cook it? Yes, I can. No, I can't.
3分	【Let's Sing】 What did you eat?		◆Beef is in the red group. Spinach is in the green group. Peanut is in the yellow group.
5分	○指導者が前時に発表した料理の食材を栄養素グループに分ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を振り返り、本時の学習内容の見通しをもたせる。 ・黒板に分かりやすくカード等で示し、全員で共有できるようにする。 ・栄養素がそれぞれ1つ以上入っていることに着目させ、バランスがとれていて健康的な料理であることを意識させる。 	◆I want curry and rice. ◆Fish is in the red group. Eggplant is in the green group. Potato is in the yellow group.
Goal : 健康的な料理を考え、友達と発表しよう。			
15分	◎健康的な料理を3人のグループで考える。作りたい料理を話し合わせ、食材を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・どうしたら健康的な料理になるかを3人で考えさせる。 	◆I like onion. What food do you like? I like cheese .Ok. What food do you like? I like bread. So we can cook pizza!
7分	・自分たちで考えた料理を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・1グループに絵カードを1セット準備し、発表の際に使うことで視覚的に分かりやすくする。 	◆Hamburger, pizza, curry and rice, ramen ◆Tuna is in the red group. Pumpkin is in the green group. Potato is in the yellow group. ◆Our curry is seafood and vegetable curry. Tuna, shrimp, pumpkin, potato.
5分	○振り返りカードに記入する。 ○挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のめあてに対する内容を書くように促す。 	◇作りたい料理を考え、すすんで発表しようとしている。

6 研究の成果と今後の課題

ここまで足立区立小学校教育研究会外国語活動部の取組や研究内容についてお示ししてきた。繰り返しになるが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、特に各分科会が設定した仮設については、実証するまでには至らなかった。

しかしながら、本誌上発表を締めくくりにあたり、協議会や講師の先生方からの指導・助言をもとにまとめた、本原稿執筆段階前に明らかになった成果（△）と課題（▼）をまとめとして以下に掲載することにした。

△コロナ渦でも、映像を使用することで、授業研究を行うことができた。昨年度の研究の方法を継続することで、目指す児童像の設定や、それに向けた仮設、仮設を実証するための手立て、検証方法と順序立ててより深く研究できた。

△高学年は Small Talk、中学年は朝の時間等でコミュニケーションを継続的に意識してとることにより、自然に英語でコミュニケーションをとることができてきている。アイコンタクト、ジェスチャー、表情（笑顔等）で、相手に配慮したコミュニケーションを心がけさせることができた。

△スモールステップで既習事項を入れながら易しい表現で教師の身近な話題を聞かせた。毎回少しずつ、繰り返し経験させることで、まとまった英語を推測しながら聞き取ることができる児童が増えた。

▼高学年教科化による評価に時間や手間がかかった分を、児童の指導の時間に充てたい。

▼今年度は連携が難しかったが、中・高学年の円滑な接続や中学校との連携を一層深めて研究を進めていくことも重要である。

小学校現場における外国語教育やその研究は他の教科等に比べると、積み上げはまだ十分とは言えないかもしれない。本部会も毎年試行錯誤を重ねながら少しずつ前進してきた。

今後も本部会は部員一人一人の自主性を尊重しながら研究活動を進め、微力ながら本区や本会における教育活動や研究活動の充実・発展に寄与できればと考えている。

終わりに、今年度も本部会の活動を支えていただいた足立区立小学校教育研究会並びに足立区教育委員会、講師の方々、そしてこのような機会を与えてくださった全英連の皆様へ感謝申し上げます、本部会の発表の結びといたします。